

sinc 関数 $(\sin x/x)$ のフーリエ変換の導出

2021 年 9 月 14 日

1 問題の設定

sinc 関数というのは,

$$\text{sinc}(x) = \begin{cases} \frac{\sin x}{x} & (x \neq 0) \\ 1 & (x = 0) \end{cases}$$

という関数のことをいう.

ここでは, フーリエ変換を次のように定義する.

フーリエ変換

可積分関数 $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ に対するフーリエ変換 $\mathcal{F}[f](\xi)$ および逆フーリエ変換 $\mathcal{F}^{-1}[f](x)$ を

$$\mathcal{F}[f](\xi) = \int_{-\infty}^{\infty} f(x) e^{-i\xi x} dx \quad (1)$$

$$\mathcal{F}^{-1}[f](x) = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} f(\xi) e^{-i\xi x} d\xi \quad (2)$$

ここで, $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ が可積分であるとは

$$\int_{-\infty}^{\infty} |f(x)| dx < \infty$$

を満たすことをいう.

さて, 次のことが成り立つ.

sinc 関数のフーリエ変換

$$\mathcal{F}[\text{sinc}(x)](\xi) = \pi \chi_{[-1,1]}(\xi). \quad (3)$$

ただし, 定義関数 $\chi_{[-1,1]}(x)$ は, $-1 \leq x \leq 1$ なら 1 を, それ以外なら 0 を返す関数としている.

この式の導出について考える.

調べてみたところ、定義関数についての逆フーリエ変換 $\mathcal{F}^{-1}[\chi_{[-1,1]}(x)](\xi)$ が $\xi \neq 0$ のとき

$$\begin{aligned}\mathcal{F}^{-1}[\chi_{[-1,1]}(\xi)](x) &= \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \chi_{[-1,1]}(\xi) e^{-i\xi x} d\xi \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_{-1}^1 e^{-i\xi x} d\xi \\ &= \frac{1}{2\pi} \left[\frac{e^{-i\xi x}}{-i\xi} \right]_{\xi=-1}^1 \\ &= \frac{1}{2\pi} \frac{e^{ix} - e^{-ix}}{i\xi} \\ &= \frac{1}{\pi} \frac{\sin x}{x} \quad (x \neq 0)\end{aligned}$$

となることから、フーリエ変換の反転公式 $\mathcal{F}[\mathcal{F}^{-1}[f]] = f$ より

$$\begin{aligned}\mathcal{F}[\text{sinc}(x)](\xi) &= \mathcal{F}[\pi \mathcal{F}^{-1}[\chi_{[-1,1]}(\xi)](x)](\xi) \\ &= \pi \chi_{[-1,1]}(\xi)\end{aligned}\tag{4}$$

と導いているものが多いような気がする。

しかし、この導出は $\text{sinc}(x)$ が可積分性の議論が不足しており厳密性に欠ける、という問題点がある。たしかに、

$$\begin{aligned}\int_{-\infty}^{\infty} |\text{sinc}(x)| dx &= 2 \int_0^{\infty} \left| \frac{\sin x}{x} \right| dx \\ &\geq 2 \sum_{n=0}^{\infty} \int_{2n\pi}^{(2n+1)\pi} \left| \frac{\sin x}{x} \right| dx \\ &\geq 2 \sum_{n=0}^{\infty} \left| \int_{2n\pi}^{(2n+1)\pi} \frac{\sin x}{x} dx \right| \\ &\geq 2 \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{(2n+1)\pi} \left| \int_{2n\pi}^{(2n+1)\pi} \sin x dx \right| \\ &= 2 \sum_{n=0}^{\infty} \frac{2}{(2n+1)\pi} = \infty\end{aligned}$$

となるため、 $\text{sinc}(x)$ は可積分ではなく、先ほどの定義でのフーリエ変換が定まらない。

そこで、もう少しちゃんと sinc 関数のフーリエ変換を導出してみることを考える。

2 準備

先ほどの問題点は、可積分関数のフーリエ変換をのみ考えたことであった。そこで、対象を広げて超関数（シュワルツ超関数）の意味でのフーリエ変換を

考えることにする。超関数であるとは、大雑把に書くと「関数を入力とし、値を出力とする」ものである。超関数 T について、入力関数 $\varphi(x)$ のときは、 $T(\varphi)$ とか $T[\varphi]$ とか書くことがあるが、今回は基本的に $\langle T, \varphi \rangle$ と表記することにする。

(超関数というのは、正しくは「有界な台を持ち無限回微分可能な関数」の集合上での連続線形汎関数のことであるが、ここで考えるのは「急減少関数」の集合 \mathcal{S} 上で定義されるもので、ゆるやかな超関数と呼ばれる。)

関数 $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ が局所可積分であるとは、 \mathbb{R} 上の任意の有界閉区間 K で、

$$\int_K |f(x)| dx < \infty$$

となるもののことを言う。この f に対して、次の例のような超関数を構成することができる。

超関数の例

局所可積分な関数 $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ に対して、

$$\langle T_f, \varphi \rangle = \int_{-\infty}^{\infty} f(x) \varphi(x) dx$$

となる T_f は超関数である。この形の超関数を $\langle f, \varphi \rangle$ というふうに略記することとする。

(ただし、 f によっては T_f は超関数であってもゆるやかな超関数ではないことがある。)

また、超関数のフーリエ変換は次のように定義される。

超関数のフーリエ変換

ゆるやかな超関数 $T: \mathcal{S} \rightarrow \mathbb{R}$ に対するフーリエ変換 $\langle \mathcal{F}[T], \varphi \rangle$ および逆フーリエ変換 $\langle \mathcal{F}^{-1}[T], \varphi \rangle$ を

$$\langle \mathcal{F}[T], \varphi \rangle = \langle T, \mathcal{F}[\varphi] \rangle \quad (5)$$

$$\langle \mathcal{F}^{-1}[T], \varphi \rangle = \langle T, \mathcal{F}^{-1}[\varphi] \rangle \quad (6)$$

ここで、集合 \mathcal{S} は急減少関数の集合とし、 $\varphi \in \mathcal{S}$ とする。

目的であった $f(x) = \text{sinc}(x)$ を「フーリエ変換」するとは、 $f(x)$ から上の例のような超関数を構成し、その超関数の意味でのフーリエ変換 $\langle \mathcal{F}[T_f], \varphi \rangle$ を求める、ということとする。これは、最初の意味でのフーリエ変換の拡張になっている。

3 $\mathcal{F}[\text{sinc}]$ の導出: 式 (4) を用いる方法

さて, では実際に $\langle \mathcal{F}[T_f], \varphi \rangle$ を求めよう. 以下では $\langle \mathcal{F}[T_f], \varphi \rangle$ は $\langle \mathcal{F}[f], \varphi \rangle$ と表記することにする (積分の順序交換が成り立てば実際にこの二つは等しいはず).

といっても, 大枠はさっきの導出の補足である. 式 (4) から

$$\mathcal{F}^{-1}[\pi\chi_{[-1,1]}](x) = \text{sinc}(x)$$

であった. ここで, 「急減少関数ではフーリエ反転公式が成立する」という事実を用いると,

$$\begin{aligned} \langle \mathcal{F}[\text{sinc}], \varphi \rangle &= \langle \text{sinc} \mathcal{F}[\varphi] \rangle \\ &= \langle \mathcal{F}^{-1}[\pi\chi_{[-1,1]}], \mathcal{F}[\varphi] \rangle \\ &= \langle \pi\chi_{[-1,1]}, \mathcal{F}^{-1}[\mathcal{F}[\varphi]] \rangle \\ &= \langle \pi\chi_{[-1,1]}, \varphi \rangle \\ \therefore \mathcal{F}[\text{sinc}] &= \pi\chi_{[-1,1]} \end{aligned}$$

と, このようにして sinc 関数のフーリエ変換が求められた! 目的達成! 簡単! 万歳!

↑ということに気が付いたのは, 以下の内容を書き切ってからでした... (泣)

4 $\mathcal{F}[\text{sinc}]$ の導出: $\mathcal{F}[H]$ と $\mathcal{F}[1]$ を用いる方法

$f(x) = \text{sinc}(x)$ とする. sinc 関数の連続性から,

$$\langle f, \varphi \rangle = \int_{-\infty}^{\infty} f(x)\varphi(x)dx = \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} f(x)\varphi(x)dx = \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{\sin x}{x} \varphi(x)dx$$

と変形できるので,

$$\begin{aligned} \langle \mathcal{F}[f], \varphi \rangle &= \langle f, \mathcal{F}[\varphi] \rangle \\ &= \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{1}{x} \sin x \mathcal{F}[\varphi](x) dx \\ &= \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{1}{x} \frac{e^{ix} - e^{-ix}}{2i} \mathcal{F}[\varphi] dx \\ &= \frac{\pi}{i} \frac{1}{2\pi} \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{\mathcal{F}[\varphi](x) e^{i\xi x}}{x} dx \Bigg|_{\xi=-1}^1 \\ &= \frac{\pi}{i} \mathcal{F}^{-1} \left[\left(v.p. \frac{1}{x} \right) \mathcal{F}[\varphi](x) \right] \Bigg|_{\xi=-1}^1 \end{aligned}$$

となる.

ただし, $v.p.\frac{1}{x}$ とは,

$$\left\langle v.p.\frac{1}{x}, \varphi \right\rangle = \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{\varphi(x)}{x} dx$$

を満たす超関数であり, 最後の変形では,

$$\begin{aligned} \left\langle \mathcal{F}^{-1} \left[\left(v.p.\frac{1}{x} \right) f \right], \varphi \right\rangle &= \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} \frac{f(x) \mathcal{F}^{-1}[\varphi](x)}{x} dx \\ &= \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \int_{|x| > \epsilon} f(x) \left(\frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \frac{e^{i\xi x}}{x} d\xi \right) dx \\ &= \int_{-\infty}^{\infty} \left(\lim_{\epsilon \rightarrow 0} \frac{1}{2\pi} \int_{|x| > \epsilon} \frac{f(x) e^{i\xi x}}{x} dx \right) \varphi(\xi) d\xi \\ &= \left\langle \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \frac{1}{2\pi} \int_{|x| > \epsilon} \frac{f(x) e^{i\xi x}}{x} dx, \varphi \right\rangle \\ \therefore \mathcal{F}^{-1} \left[\left(v.p.\frac{1}{x} \right) f \right] &= \lim_{\epsilon \rightarrow 0} \frac{1}{2\pi} \int_{|x| > \epsilon} \frac{f(x) e^{i\xi x}}{x} dx \end{aligned}$$

と書けることを用いた.

(2行目から3行目で積分の順序交換をやっているけど, ほんまにやっ
てええのかは知らん)

ところで, 以下の事実が成り立つ.

ヘヴィサイド関数のフーリエ変換

ヘヴィサイド関数 $H(x)$ は,

$$H(x) = \begin{cases} 1 & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$$

を満たし,

$$\langle H, \varphi \rangle = \begin{cases} \varphi(x) & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$$

となる超関数である. この超関数について,

$$\mathcal{F}[H(\xi)](x) = \pi\delta(x) - i v.p.\frac{1}{x} \quad (7)$$

1 のフーリエ変換

$f(x) = 1$ を超関数の意味でフーリエ変換すると,

$$\mathcal{F}[1](x) = 2\pi\delta(x) \quad (8)$$

である. ただし, デルタ関数 $\delta(x)$ は,

$$\delta(x) = \begin{cases} \infty & (x = 0) \\ 0 & (x \neq 0) \end{cases}$$

を満たし,

$$\langle \delta, \varphi \rangle = \begin{cases} \varphi(0) & (x = 0) \\ 0 & (x \neq 0) \end{cases}$$

となる超関数である.

これから,

$$v.p.\frac{1}{x} = i \left(\mathcal{F}[H(\xi)](x) - \frac{1}{2}\mathcal{F}[1](x) \right) \quad (9)$$

したがって, フーリエ変換の公式 $\mathcal{F}[f](x)\mathcal{F}[g](x) = \mathcal{F}[f * g](x)$ (* はたたみこみ積) を用いると,

$$\begin{aligned} \frac{\pi}{i} \mathcal{F}^{-1} \left[\left(v.p.\frac{1}{x} \right) \mathcal{F}[\varphi(\xi)](x) \right] \Big|_{\xi=-1}^1 &= \pi \mathcal{F}^{-1} \left[\left(\mathcal{F}[H(\xi)](x) - \frac{1}{2}\mathcal{F}[1](x) \right) \mathcal{F}[\varphi(\xi)](x) \right] \Big|_{\xi=-1}^1 \\ &= \pi \mathcal{F}^{-1} \left[\mathcal{F}[(H * \varphi)(\xi)](x) - \frac{1}{2}\mathcal{F}[(1 * \varphi)(\xi)](x) \right] \Big|_{\xi=-1}^1 \\ &= \pi \left((H * \varphi)(\xi) - \frac{1}{2}(1 * \varphi)(\xi) \right) \Big|_{\xi=-1}^1 \end{aligned}$$

ここで, たたみこみ積の定義から

$$\begin{aligned} (H * \varphi)(\xi) &= \int_{-\infty}^{\infty} H(\xi - y)\varphi(y)dy = \int_{\xi \geq y} \varphi(y)dy \\ (1 * \varphi)(\xi) &= \int_{-\infty}^{\infty} \varphi(y)dy \end{aligned}$$

であるから,

$$\begin{aligned} \pi \left((H * \varphi)(\xi) - \frac{1}{2}(1 * \varphi)(\xi) \right) \Big|_{\xi=-1}^1 &= \pi \left(\int_{1 \geq y} \varphi(y)dy - \int_{-1 \geq y} \varphi(y)dy \right) \\ &= \pi \int_{-1 \leq y \leq 1} \varphi(y)dy \\ &= \langle \pi\chi_{[-1,1]}, \varphi \rangle \end{aligned}$$

結局,

$$\langle \mathcal{F}[f], \varphi \rangle = \langle \pi \chi_{[-1,1]}, \varphi \rangle \quad \therefore \mathcal{F}[f] = \pi \chi_{[-1,1]}$$

がわかる.

あと, たぶん $\frac{\sin x}{x}$ を $\sin x$ と $v.p. \frac{1}{x}$ の積と見て積のフーリエ変換についての公式を使っても出る. どうせヘヴィサイド関数 $H(x)$ とデルタ関数 $\delta(x)$ のたみこみとかになるんでしょ (適当)